

◇令和2年／2020年1月号 第95号◇



フジサンケイグループ

会 産経国際書会 報

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



風岡五城理事長 揮毫

「子」—十二支の第一番目。「漢書」によると、「子」は「孳」(し=「ふえる」の意)に通じ、新しい生命が創造される様子、新しく芽が伸び始める状態を表しているとされます。動物の「ネズミ」が当てられたのは後代のことですが、「ネズミ算」という言葉があるように、子をどんどん増やす「子孫繁栄」の象徴でもあります。今年が東京オリンピック・パラリンピックの年。日本の世の中が栄える年になると良いですね。



産経新聞社
事業本部長
伊藤 富博

さらなる発展に向けて

新年明けましておめでとうございます。
皆様から旧年中に賜りましたご支援にあたた
めて感謝申し上げます。

昨年は平成から令和に代わり、ご即位の一
連の行事も行われるなど、日本という国のあ
りかたに改めて思いをいたす年となりました。

今年は干支でいうと子年、ねずみ年です。ね
ずみは多産で子孫繁栄を表すと言います。産
経国際書会も五輪同様、勢いを衰えさせるこ
となく、さらなる発展に向けて、皆様とともに
取り組んで参ります。

昨年は、皆様に二つの誓いを立てさせてい
ただきました。出品点数の増加と精力的な活
動の継続です。こちらは今年も続けて行きま
す。臨書をテーマとした研修会を東西で開催
し、大変盛り上がりました。地方でも開催した
いという言葉もいただきました。書会の足腰
を鍛えるには最適の行事だと思いますので、
ぜひ継続したいと思います。

一昨年からの特別企画「書で結ぶ世界と日
本」も引き続き行います。産経の特色である国
際交流にぴったりの企画ですし、東京五輪の
会期と重なることもあり、海外から来られる
方にも楽しめる内容にしたいと思います。

最近、うれしいことに皆様方から今の書会
事務局はまとまりが良いとお褒めをいただく
ことが多いのですが、慢心せずに会員の皆様
と書会事務局、新聞社が心をつにして、発展
に向けて取り組みますので、よろしく願ひ
いたします。



産経国際書会
理事長
風岡 五城

伝統文化である書を世界にアピール

あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては輝かしい新年
をお迎えのこととお慶び申し上げます。令和
の歳二年目となりますが、年頭に当たりこの
令和の時代が平和で豊かなものとなるよう願
ってやみません。

今年はまた2020年東京オリンピックの年で
もあります。世界の国々から選手団をはじめ
多くの訪日客をお迎えすることになるでしょ
う。そして第37回産経国際書展はそのオリ
ンピック期間中、真っただ中での開催となりま
す。日本の伝統文化である書を外国の方々に
広く紹介する絶好の機会と捉えなければなり
ません。「書で結ぶ世界と日本」の企画は三年
目となり、いっそう充実した内容での展示に
したいと思っています。さらに会場内では、お
もに外国の人たちを対象にしたワークショッ
プを開いて書への理解を深める活動を計画し
ています。

内に向かっては、古典の臨書を中心とした
研修を一層進めて行きたいと考えています。
昨年の8月には東京で二日間、9月には大阪
で一日の研修会を開催しましたが、参加され
た方々の学びたい、いい書が書きたいという
意欲の大きさに強い感銘を受けました。期待
にこたえなくてはなりません。臨書そのもの
の質をさらに高め、臨書の可能性を広げてい
くことが当面の課題となるでしょう。

今年はすでに瀬戸内でも研修会をという声
が上がっています。これはもう産経の大きな
流れになろうとしています。

更なる充実を

最高顧問 齋藤香坡



自然の猛威は、多くの人命と家屋を奪い、日本列島に莫大な被害をもたらしながら令和2年を迎えることになりました。書会にありましては、伊藤欣石副会長の逝去で、書会の一角を喪失したと思います。ところでいまだお正月を迎えられない方も多い故、一日も早い復興を祈念申し上げまして、改めて会員皆様の更なるご精進とご健康を願い、本年も宜しく願いいたします。また役員の皆様誠にご苦勞様でした。

本書会は新春展を仕切に活動が始まります。

そのうえ今年はオリンピックの年に当たり、海外より多くの来訪で、日本列島が揺れ動くことでしょう。書道界にあっても、六本木の国立新美術館で「日本の書200人選」が開催されます。書会は国際という大きな看板を背負っての活動となります。その為にも今後は4Cのクリエイティブ、創造の世界と内容の充実に力を注ぎ、より国際展に相応しい書会となることを切に願って止みません。

書に邁進

最高顧問 佐々木月花



明けましておめでとう。皆様も無事新年を迎えられたと思います。子年ですが干支の一番目、何か気分も新たに感じます。2020のオリンピックを祝す大きな書展。そして第37回産経国際書

展は大会を盛り上げることと思います。私たちも書に邁進して良い作品を作ってゆきましょう。若い人達のガンバリを期待しております。

古典臨書で力をつけよう

最高顧問 田中鳳柳



昨年は天皇陛下即位の行事で一年が終わったような気がする。古式豊かな内容で歴史の残る貴重な年であったと思う。いっぽう私達の産経書会も内容充実で力をつけているのだろうか。それは古典との取組みを含む書作発表の場が広がっているのかという想いと同じである。年末には顧問会議も開催され、年間の反省や作品表

現の問題点等が議論されることになっている。

北宋の蘇東坡は「退筆山の如きも未だ珍とするに足らず、読書万卷始めて神に通ず」という。

心したい名言である。今後一年、会員の皆さんと書会行事に協力したいと思っています。

外向きの書、内向きの書

最高顧問 村越龍川



ある社会医学の本によると、人の声には外向きの声、内向きの声があるそうです。これは多分に後天的で、仕事柄の属性によるところ大のことです。グラウンドで大声を出す野球監督などは外向き、学者やもの書き先生は内向きの声の典型とありました。

ところで『書』においてはどうでしょう。優しく柔らかな良寛さんの書は内向きの書、天に向かって雄たけびを上げているかの如き棟方志功さんの書は外向きの書、の見本のように思えます。

さて、^{こくい}刻意の書、^{そつい}卒意の書、と時おり私たちは耳にします。前者は作品として練り上げて書か

れた事で外向き。後者は手紙などのように倉卒の間に認められる事で内向きといえましょうか。

かつて、青山杉雨先生の「書道グラフ」で鈴木翠軒先生のお話が紹介され、その無飾でシンプルな書風に私は心強く打たれ、いつの日か自分もこんな手紙文が書けるようになりたいと思いました。

さて、私は、ここ数年はもっぱら金文をベースに少字の大字作品を産経展に発表して参りました。そして卒寿を迎えた今は『刻意の中に卒意あり、卒意の中に刻意あり』そんな「書」を追い求めて日々筆を執っております。

東北展

東北展実行委員長
松崎 龍 翠

会期●8月30日(金)～9月4日(水) 会場●せんだいメディアテーク



挨拶する伊達泰宗様

東北展を終えて

去る8月30日から9月4日まで、杜の都仙台のメディアテークにおいて、第36回産経国際書展東北展が開催されました。中央から特別展示された幹部諸先生の作品は勿論のこと、今展に展示された東北の作品も昨年にも増して、参観者より高い評価を頂きました。特に今展は地元の田村政晴先生の内閣総理大臣賞受賞作品展示に、大きな関心の高まりを感じる東北展となりました。

贈賞式では、産経新聞社を代表して事業本部長伊藤富博様、産経国際書会より風岡五城理事長のご挨拶を始め、ご遠方より多数の役員諸先生に御来臨賜り衷心より感謝申し上げます。又、ご多忙の中、御来駕を賜りました仙

台伊達家18代御当主伊達泰宗様には御丁重なる御祝辞を賜り、今年の伊達政宗賞の鈴木葉光氏に賞状を授与されました。深く感謝申し上げます。

恒例となったギャラリートークも作品の解説や受賞者の田村先生を始め、作品制作の思いを披露され、有意義に和やかに進行し、参加者からも好評でした。講演会は、今展の内閣総理大臣賞の常任顧問田村政晴先生より、貴重な体験と示唆に富んだお話を感慨深く拝聴し、意義深い講演会となりました。

最後に、御後援頂いた東北六県・仙台放送と関係者に深甚なる感謝の意を表し報告とさせていただきます。



内閣総理大臣賞と高円宮賞の作品



伊達政宗賞の授与



地元記者に作品のポイントを丁寧に解説



ギャラリートークで解説する松崎龍翠実行委員長



瀬戸内展実行委員会の皆さん



瀬戸内展会場

瀬戸内展

瀬戸内展実行委員長
大庭 清 峰

会期●9月24日(火)～29日(日) 会場●広島県立美術館

令和元年9月24日から29日まで、第36回産経国際書展瀬戸内展が、例年通り、広島県立美術館地下ギャラリーにおいて開催されました。書会幹部の諸先生方の作品は勿論のこと、地元の方々の作品、そして学生たちの作品に対し、来館者の皆さんに高く評価され嬉しく思っております。恒例になりました特別賞受賞の方々のギャラリートークでは、作品のコンセプト、狙い、そして苦慮した点を話していただきました。ギャラリートークに集まれた方々にとって、受賞者の作品への思いは、各々の次回作へのモチベーションとなったことでしょう。

28日には贈賞式・祝賀会が開かれ、祝賀会では広島県議会議員の林大蔵先生より瀬戸内展に対して温かいお言葉をいただき、また広島県書美術振興会理事長の村上俄山先生よりユーモアを交えた御祝辞をいただき、感謝申し上げます。松井玲月副理事長の乾杯で始まった祝宴では、歓談の中、会員の皆さんの親睦が深まったことと思います。祝賀会の最後には実行委員の自己紹介と上村陽香常務理事の閉会の挨拶で、無事終了いたしました。

瀬戸内展がささやかながら書文化に貢献できましたことは、関係各位のおかげであります。改めて感謝申し上げます。



受賞作品展示風景



U23の表彰

中部展

中部展実行委員長
村田 白 葉

会期●11月12日(火)～17日(日) 会場●愛知県美術館ギャラリー

第36回中部展は、リニューアル工事を終えた愛知県美術館で開催されました。壁面が真白に塗り替えられ、展示作品を一層引き立てくれ、素晴らしい展観になりました。今回展も韓国文化院長賞受賞の常務理事、赤堀翠柳先生をはじめ、特別賞入賞者34名と中部地区の出品者の活躍は目覚ましく、レベルの高さを示してくれております。

晩秋の名古屋は暖かな日が続き、16日の贈賞式・祝賀会には遠方より大勢のご来賓の皆様のご出席をいただき盛大に開催することができました。例年、ご出席いただいた大村秀章愛知県知事は公用のため欠席とのご連絡に大変残念な思いでしたが、最終日の17日に展覽会場にお見えいただき、展示された作品を1点1点ゆっくりと観てくださり出品者に温かいお言葉をいただきました。

中部展実行委員の先生方をはじめ、展示、搬出、贈賞式、祝賀会の準備、運営と大勢の先生方のご協力をいただき、無事終了できました事、心より御礼申し上げます。



自作を説明する赤堀翠柳先生



メイン会場



中部地区の幹部先生方の作品を説明する村田白葉先生



賑わう祝賀会

関西展

関西展実行委員長
松井 玲 月

会期●11月26日(火)～12月1日(日) 会場●大阪市立美術館

第36回産経国際書展関西展は、11月26日から12月1日まで、大阪市立美術館に於いて開催されました。タレントさんやU23、ジュニアの力作もあわせて491点の展示。来場者からは変化に富んで楽しく拝見しましたと好評でした。

贈賞式・祝賀会は、12月1日、都シティ大阪天王寺にて挙行。ご多用の中、産経新聞社取締役大阪代表の扇谷英典様にご出席され、温かいご挨拶をいただき、風岡五城理事長には示唆に富んだお話を頂戴しました。また、遠く埼玉、神奈川、静岡、愛知、広島からと駆けつけて盛り上げて下さいました役員の先生方にも、心より御礼申し上げます。

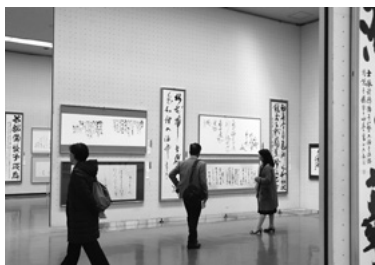
今回特筆しますことは、受賞数が大幅に増えたことです。ダブル受賞やU23大賞も含んで94点あり、とても嬉しい成果がありました。当日は、その中から58名が受賞式に臨み、晴れがましい贈賞式となりました。祝賀会では、伊藤富博事業本部長から御祝いの言葉を、そして勝田晃拓副理事長には、乾杯の音頭を取っていただき、宴に入りました。蔡愛琴様の中国古楽器の演奏を楽しんでいただき、和やかに交流、無事終了しました。実行委員の先生方は、ワンチームで会の成功にご努力下さり、また関係各位の方々のご協力に感謝申し上げ、報告いたします。



乾杯の音頭をとる書会来賓者



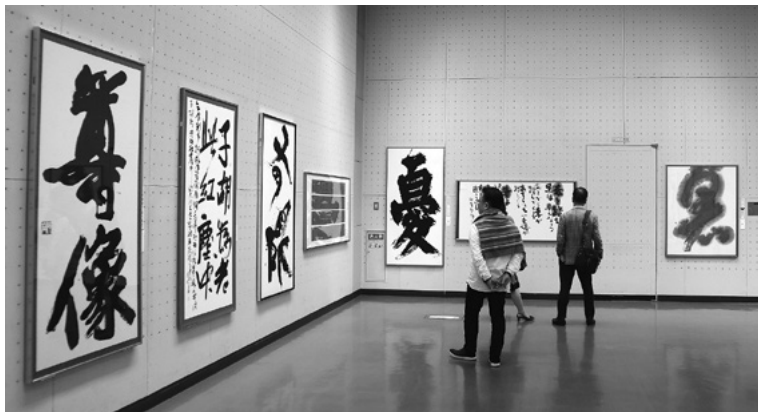
関西展実行委員の皆さん



展示風景



U23入選



幹部の先生方の作品

第37回 産経国際書展 募集要項

1. 複数出品の料金は3,000円です。
2. 第2分野の料金は10,000円です。
3. 外国人出品者は軸装での展示を認めます。
4. 2020ジュニア展高校生A部門出品者は、U23部門の出品料を1点無料とします。

【出品資格】 18歳以上の方ならどなたでも、但しU23は高校生以上23歳まで(2020年4月1日現在)

【作品部門】 (各部門とも未発表作品に限ります)

- 漢字部門: A 20字以内 B 21～200字以内 C 201字以上
- かな部門
- 現代書部門: A 少字数書(4字以内) B 近代詩文書(漢字かな交じり文) C 墨象 D 刻書
- 臨書部門: A 漢字 B かな ※出典は自由
- 篆刻・刻字部門: A 篆刻 B 刻字 ※この部門は第1分野です
- U23部門: 年齢制限(高校生～23歳)のみ、すべてのジャンルの書作品を同じ土俵で審査します。

【作品寸法】 (仕上がり寸法を基準とする)

第1分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法＝基準寸法
A	240cm×60cm	8尺×2尺(242cm×61cm)縦のみ
B	180cm×60cm	6尺×2尺(182cm×61cm)縦横自由
C	135cm×105cm	4.5尺×3.5尺(136cm×106cm)縦横自由
D	135cm×70cm	5.8尺×2.8尺(176cm×85cm)縦横自由
E	180cm×90cm	6尺×3尺(182cm×91cm)縦横自由
F	120cm×120cm	4尺×4尺(121cm×121cm)

※紙寸法聯落以上の作品であること(但し一つの詩・詞で半切2枚の貼り込みは可)。

※篆刻・刻字・刻書は規定以内であれば自由。

※「かな」の小作品でも、上記規定寸法A、B、C、D、E、Fに貼り込めば第1分野と認めます。

第2分野

	紙の最大寸法	額(外枠)の寸法
G	135cm×35cm	小画箋2分の1・縦横自由
H	70cm×68cm	小画箋2分の1・方形のみ

※半切は種類により寸法に多少違いがありますが、1～2cmの誤差は認めます。

※「かな」の小作品は、上記規定寸法F、G以外でも第2分野として認めますが極端に小さい作品は不可。

- 【出品料】 一般部門 第1分野(税込み)＝1点13,000円、第2分野(税込み)＝1点10,000円
 ※日本国籍以外の方1点＝8,000円
 U23(高校生以上23歳まで)部門＝1点5,000円、但し「2020産経ジュニア書道コンクール」高校生A部門出品者はU23部門の出品料(1点)を無料とする。
- ※分野にかかわらず複数出品の場合(2点目以降)1点3,000円
- 【賞】 高円宮賞、産経大賞など特別賞と特選、秀作、入選など。
- 【応募締切】 2020年5月7日(木) 午後3時までに指定表具店(別記)に搬入をお願いします。
- 【発表】 2020年7月中旬 産経新聞紙上にて。
- 【贈賞式】 2020年7月29日(水)、大手町サンケイプラザ 4階ホール(東京都千代田区大手町)
- 【展覧会】 会場:東京都美術館 東京都台東区上野公園8-36
 会期:2020年7月27日(月)～8月2日(日)
 開館時間:午前9時半～午後5時半 入場は5時まで
 入場料:500円(障害者手帳をお持ちの方と付き添いの方2人、65歳以上、および学生は無料)
 展示作品:秀作以上の入賞作品、地方展(東北、瀬戸内、中部、関西)展示エリア以外の入選作品

問い合わせ 詳細な募集要項と出品票は産経国際書会までご請求下さい。

第37回 産経国際書展 審査員(予定)

特別選考委員／石川天瓦、風岡五城、笠嶋忠幸、齋藤香坡、酒井孝太郎、晋鷗、竹澤玉鈴、田中鳳柳、手島泰六、富田淳、原田圭泉、平方峰壽、村越龍川、山下海堂、吉野毅

漢字／愛澤奏剣、泉芳秋、金丸鬼山、大庭清峰、勝田晃拓、坂本香心、鈴木暁昇、高木撫松、長尾佳風、永田龍石、前田聖峰、三宅秀紅、林弘子、平岡雄峰、山本晴城

かな／伊藤春魁、今口鷺外、加藤芳珠、齋藤春欣、武富明子

現代書／生田佳葉、遠藤香葉、大橋玉樹、加柴律子、小嶋カズ子、諏訪春蘭、高橋照弘、高橋雄喜、中西美蕙、山田秀園、渡邊麻衣子

篆刻・刻字／風岡五城、五月女紫映、陸氓卿

臨書／今田篤洞、篠原秀朋、松井玲月、松崎龍翠、望月暁云

U23／大谷煌水、岩下鳳堂、鎌田悠紀子、高頭子翠、渡邊麗

2020産経ジュニア書道コンクール

高校生A部門の出品料は3,900円。軸装にして返却します。※返却料はご負担ください。

開催要項

会 期 2020年7月27日(月)～8月2日(日)
 午前9時30分～午後5時半(最終日は午後2時半まで)
 前期＝7月27日(月)～29日(水)
 後期＝7月31日(金)～2日(日)
 ※7月30日(木)は展示替えのため休室
会 場 東京都美術館 2階第4展示室
 文部科学大臣賞など特別賞。推薦、特選、秀作、佳作となります(中学生以下)。

贈 賞 式

2020年7月28日(火)予定
 いきいき賞:午前11時～、
 小中高生:午後2時～

審 査 員

2020年4月中旬に発表します。審査長は高橋照弘、実行委員長は眞田朱燕。

発 表

入賞者氏名は2020年7月中旬の産経新聞紙上(予定)で発表します。

募集期間

2020年4月1日～6月2日消印有効

搬入場所

〒234-0054
 神奈川県横浜市港南区港南台7-51-12
 藤和額装内
 「産経ジュニア書道コンクール」係
 ☎045(833)5273

出品要項

応募点数 一人何点でも可 **応募資格** 幼年、小学生、中学生、高校生

出品規定

		幼 年	小学生	中学生	高校生
書 体		楷書		楷書または行書	自由
大きさ	A部門	八つ切り(縦のみ)			小画仙たて半切(縦書きのみ) 〳 よこ半切(縦横自由)
	B部門	半紙(縦のみ)			半紙(縦のみ)または半切よこ 4分の1(縦横自由)
作品への名前等 の書き方		年齢と姓名 姓名どちらかでも可	学年と姓名 小1、2年は姓名どちらかでも可		名前(姓不要)の下に書または 臨と墨書
出品票		漢字でフルネームを記入し必ずふりがなを明記し、作品の			左下隅に貼付 臨書は法帖名、創作は題名を 備考欄に記入

※八つ切り＝半切4分の1(たて68cm×よこ18cm)、小画仙たて半切＝たて135cm×35cm、小画仙よこ半切＝たて68cm×70cm、半切よこ4分の1＝たて34cm×35cm

※多少の寸法誤差は認めます。

※規定の出品一覧表を添えてください。

	規定の漢字数	参考課題	
幼年	規定なし	つき	さんご
小1	規定なし	えがお	こうえん
小2	規定なし	子ども	なみのり
小3	漢字1字以上	つゆ草	光とかげ
小4	漢字2字以上	美しい国	千羽づる
小5	漢字3字以上	入場行進	輝く太陽
小6	漢字4字以上	雄大な自然	意気投合
中学	漢字4字以上	地球家族	無心得良悟
高校	制限なし(一字書から多字数)	臨書あるいは創作(書体自由)	
国際	規定なし		

※国際は外国人または国外在住の日本人

※参考課題は、A(八つ切り)部門、B(半紙)部門共通です。

出品料

	中学生以下	高校生	国際
A部門	1,000円	3,900円	600円
B部門	600円	600円	600円

※金額は税込み、高校生A(たて半切、よこ半切)部門は軸装料含む。また、軸装作品は展覧会終了後、返却します。※但し、返送料をご負担ください。

出品料は下記銀行口座にお振込みください。

みずほ銀行 大手町営業部 普通2786314 口座名:ジュニア書道コンクール

募集要項、出品票、一覧表は産経国際書会事務局☎03(3275)8902までお問合せください。

一式資料をお送りいたします。

高円宮賞 受賞記念祝賀会

9月29日(日) 上野精養軒 桜の間



渡邊麗先生にお祝いの言葉を述べる飯塚浩彦社長

本年第36回産経国際書展で最高賞「高円宮賞」受賞、感謝の会を開催しました。約150名のご参席で賑わう大会場、壇上のご祝辞は、

産経新聞社社長飯塚浩彦様、産経国際書会最高顧問齋藤香坡様、独立書人団理事長仲川恭司様、杉並区議会議員藤本なおや様、産経国際書会理事長風岡五城様、産経新聞社相談役熊坂隆光様、産経広告社社長吉井雄二様、書壇院顧問柳田純一様、山商高校元校長今野清様、筑波大名名誉教授角井博様から賜り、祝電では、衆議院議員石原伸晃様、山形市長佐藤孝弘様、産経国際書会名誉顧問平方峰壽様、他の方々より頂きました。誠に有り難く名誉な事で、栄えある高円宮賞に相応しい盛大且つ和やかな祝宴となりました事を、この場で御礼申し上げます。今後益々書会の躍進と発展へと邁進致します。

渡邊麗

内閣総理大臣賞 受賞記念祝賀会

11月17日(日) メトロポリタン仙台 銀河の間



挨拶をする田村政晴先生

祝賀会のご多用にもかかわらず伊藤富博産経新聞社事業本部長、山下海堂名誉顧問、風岡

五城理事長にご臨席を賜り、令和元年11月17日、メトロポリタン仙台「銀河の間」で開催された。書成会会長建部恭子実行委員長の呼びかけで、参加者数80名ほどで、多くは産経国際書展の練成会等で顔見知りの人達だ。実に和やかに、また書展の作品制作等を話題に、どのテーブルも、活気に満ちていた。

伊藤本部長に託された飯塚浩彦産経新聞社社長の祝辞を拝聴し、これからの身の処し方、覚悟を思うと、身の引き締まるものがあった。参加者には内閣総理大臣賞を身近なものと感じ、本書展への参加の輪を広げる切り口にして欲しい。この日は人生最良の日となった。

田村政晴

大 阪 研 修 会

会期 9月15日(日)
会場 ブリーゼプラザ(大阪梅田)

副理事長 松井玲月

令和元年9月15日、10時から17時まで、ブリーゼプラザ小ホールにおいて、研修会を開催しました。受講者数は113名で、大阪、京都、奈良、そして広島方面からも参加がありました。まず午前、副理事長の高橋照弘先生が楷書「九成宮醴泉銘」について講義と実作、添削指導が行われました。午後からは、理事長の風岡五城先生が、行書「蘭亭序」について講義と実作、添削指導が行われました。添削指導の時は、希望者が多く、今口鷺外、松井玲月、小野亭良、長尾佳風、久田方琥、中村雪鷺の各先生方にも協力いただきました。そして、今回は新しい試みとして「書写技能検定について」を取り上げ、概要を常務理事の町山一祥先生が資料をもとに説明、「書写技能検定試験を受けるにあたってのポイント」を常任顧問の今口鷺外先生がご指導くださいました。盛りだくさんな内容でしたが、皆さま熱心に取り組まれて、笑顔で帰られました事を報告させていただきます。



熱気あふれる会場



ポイントを説明する風岡五城理事長



筆を取って直接指導する高橋照弘副理事長



筆の使い方を指導する今口鷺外常任顧問



丁寧に話しかける松井玲月副理事長



添削する小野亭良常務理事(右)と中村雪鷺専管理事

理事会で来期の概要決まる

令和元年度産経国際書会理事会が12月3日(火)、東京千代田区の大手町サンケイプラザで開かれました。はじめに産経新聞社の飯塚浩彦代表取締役社長から挨拶があり、その後、風岡五城理事長が議長を務め、議事を進行いたしました。事務局から11月までの事業報告、今後のスケジュールの説明があり、次に人事案の説明。執行部役員については、来期は改選期となりますが、執行部役員はそのままで、風岡体制で運営していくことが決まりました。納谷古石常任顧問が名誉顧問に就任、長年書会で活躍してきた先生方が常務理事、専管理事などに昇格しました。また審査会員、無鑑査会員、会友については、205人の昇格人事を発表し、承認されました。また、来年度の実行委員会や運営委員会については原則今年度のメンバーが引き続き担当することです承されました。



(事務局)

【今年度の活動(4月～11月)】各部会会議・活動

総括会議＝4/18、5/30、11/7、総務部＝7/3、教育部＝6/6、6/12、6/18、9/18、企画部＝4/9、8/27、研修部＝5/17、7/29、会報・広報部＝4/22、4/25、5/7、7/2、8/30、9/6、9/9、11/5、渉外・総務・企画部(大使館企画)＝4/15、4/25、4/27、5/8、5/13、5/16、5/21、5/22、6/7

【催事一覧】

催事名	展覧会場	作品締切	展覧会期	贈賞式会場	贈賞式日程
第36回産経国際書展 新春展 (代表展併催)	国立新美術館		1月22日(水)～2月3日(月) 10:00～18:00(最終日15:00迄) 1月28日(火)休館	明治記念館	1/30(木) 16:00～18:30
産経国際書会総会	大手町サンケイ プラザ		4月16日(木)14:00～16:00		
第37回産経国際書展 審査会	シアター1010	5月7日(木)	5月25日(月)～29日(金)		
2020ジュニア書道 コンクール審査会	東京都美術館	6月2日(火)	6月16日(火) ※17日(水)に作品整理		
第37回産経国際書展 本展	東京都美術館		7月27日(月)～8月2日(日) 9:30～17:30(最終日は14:30まで) ※7月30日(木)一部掛替えあり	大手町サンケイ プラザ	7/29(水) 14:00～15:30
2020ジュニア書道 コンクール	東京都美術館		7月27日(月)～8月2日(日) 9:30～17:30(最終日は14:30まで) ※7月30日(木)一部掛替えあり		7/28(火) (予定)
第37回産経国際書展 東北展	せんだいメディア テークギャラリー		9月11日(金)～16日(水)	ホテルメトロ ポリタン仙台	9/13(日) 15:00～
第37回産経国際書展 瀬戸内展	広島県立美術館		9月29日(火)～10月4日(日)	広島ガーデン パレス	10/3(土) 14:00～
第37回産経国際書展 中部展	愛知県美術館 ギャラリー		11月3日(火)～8日(日)	キャッスル プラザ	11/8(日) 12:00～
第37回産経国際書展 関西展	大阪市立美術館		11月25日(水)～11月29日(日)	都シティ大阪 天王寺	11/29(日) 12:30～
理事会	大手町サンケイ プラザ		12月1日(火)14:00～16:00		
第37回産経国際書展 新春展 (代表展併催)	国立新美術館		2021年1月20日(水)～2月1日(月) 10:00～18:00(最終日15:00迄) 1月26日(火)休館		

第 36 回 産経国際書展 新春展

◆会期 令和2年1月22日(水)～2月3日(月)

1月28日(火)休館

午前10時～午後6時

◆会場 国立新美術館 2階B・C・D展示室

◆入場 500円(大学生以下、65歳以上は無料)。

※1月30日(木)午後2時からギャラリートーク、
同日午後4時から明治記念館で贈賞式・祝賀会を行います。

※今回は、代表展＝202点、新春展Ⅰ＝179点、新春展Ⅱ＝400点、合計781点を展示します。



新春展Ⅱの審査は12月6日(金)、東京・六本木の国立新美術館地下1階の審査室で、松崎龍翠、武富明子、勝田晃拓、村田白葉、高木撫松、松井玲月の6人の先生方(＝写真左から)により400点の作品の審査が行われました。

受賞者は以下の通り

〈会友奨励賞〉

亀村曜子、坂井礼子、島田昌広、土田真山、中部紫苑、八幡華翠

〈産経新聞社賞〉

津田玉華、常松真紀、中村光枝、森井爽生、藁科紅潤

〈奨励賞〉

荒木葵紅、一木登代子、大野愁保、工藤妙華、小西玲香、小堀望、作田瑤春、田中瑛恵、田中玉鈴、田中福代、田中由里子、津田玉華、津田清美、中村葵祥、畑迫秀岳、三島志穂、水上真溯、道下清扇、武藤桐成、望月和光、森田玲心、山口富彌、山田なつ湖、山中岳峰、吉田早織、吉原輝舟、和田悠粋

受賞者が
決まりました!

顧問会議

11月19日、産経新聞社8階会議室にて年に一度の顧問会議が行われました。最高顧問から顧問までの先生にお集まりいただき、書会、書展などの様々な問題点などを意見交換し、貴重な提言をいただきました。

今まで本展では作品サイズについて2×8尺は縦のみという規定だが、横も認めるという選択肢について検討してもいいのではないかという意見が出て、一度、総括会議で検討しようという話になりました。また、新春展の大作の規定や、実際の作品が漢字部門なのか現代書部門なのか作品の分類についても白熱した意見が交わされました。

参加者は、15人。齋藤香坡、田中鳳柳最高顧問、竹澤玉鈴、山下海堂名誉顧問、岩田正直、青陽如雲、田村政晴、原田圭泉常任顧問、五十嵐光子、白崎菖汀、森井翠鳳顧問と風岡五城理事長、産経新聞社、事務局からは、伊藤富博事業本部長、福本雅保会長代行、糸雅人事務局長が出席しました。

書と私

戦後、新しい時代の新しい表現としての少字^{めうけい}数書、就中一字書を希求したのが父手島右卿(1901~1987)でした。それまで一般的であった漢字書の多字数の字間・行間の表現に対して右卿は「一字書は書というものを別の美意識で表現できる」と考えました。新しい書は絵画性へと接近を試み、線と空間を希求します。

そもそも、漢字の多くは表意文字であるので、一字だけの意味を負っています。それ故、一字の書における言葉と形には深い関係があります。一字から二字の簡潔な句を選び象徴化し純化した作品を創作する一多くを語るより一言でいい切る言^{こと}霊^{だま}の響きを追求した一それを右卿は「象書」と唱えました。では、書は美しければそれでいいのか一形(フォルム)の美しさが芸術なのかといえ、これは外面的な捉え方でしかありません。実は書の本質は文字を書くだけのものではないのです。果たして独創的な書とはどのようなものか。更に正確を期すれば、下手に見える書でも精神が顕れているものは芸術書となり得るに違いありません。

高僧の書画がその良い例で、聖人・高僧といわれる人の書はその巧拙を超えて味わい深いものがあります。つまり、書は極めて精神的な、人の精神の根源を表出するメソッドであり、それ故に古来より「書は人なり」とも言われます。聖人や高僧の書、或いは辛酸を舐め尽くした文人の書は、心線を鍛え上げて独創の書をものにしています。複雑多岐な心を一点に集中するためには精神鍛錬が不可欠です。一心に真^{まこと}を委ね、我を忘れて唯、筆を持っては能く書かんとする心が貴いのです。

名誉顧問
手島 泰六



右卿は絶妙な古法(八面出鋒)をもって優品を遺しました。円運動による筆力、沈着、飛動の妙を成就しました。しかし私は右卿の書法を模倣するつもりはありません。むしろ私は古法による円相の書ではなく、単鉤法からも廻腕法からも自由となり、矩形のズシリとした書を書きたいと願っています。巧まざる自分自身の書を一。

書は本来、一人一人千変万化であるべきです。万象はそれぞれ文字のうちに在るという。この深遠廣大なる世界観をもって、究極の書表現である一字書をとことん追及してゆきたいと念じています。



「國」 2012年



「悠久」 第二十六回産経国際書展 高円宮賞受賞作



「遙」 2002年



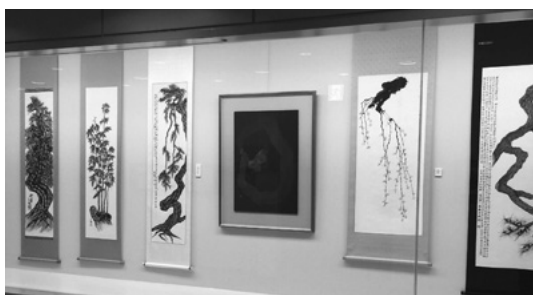
松の超大作

香坡の書画三昧

最高顧問、齋藤香坡先生の5年ぶりとなる個展、「香坡の書画三昧展」が10月26日(土)から31日(木)まで、齋藤先生の郷里・鎌倉市の鎌倉芸術館で開催されました。前回同様、最大天井高4.5m、合計面積400平方mに及ぶ広大なギャラリー全室を余すところなく使い、巨大な松を李白の詩とともに描いた450×600の超大作や、45×600の松図・賈島詩、松木積雪図などの松を題材にした書画から、力強く変化に富む行草書、楷書、大字、軽妙な詩文書、そしてかなに至るまで約130点をボリューム満点の展示。暗

所にした一角には蛍光塗料で描いた作品もあり、見る人を圧倒する圧巻の内容でした。30日(水)には祝賀会が行われ、飯塚浩彦産経新聞社社長、風岡五城理事ら多くの書会関係者がお祝いに訪れました。

齋藤先生は17歳で森翠坡に師事して書道65年。9月に82歳を迎えられましたが、「まだ芸道半ば」とおっしゃいます。来年は、会場を川崎市のアートガーデンかわさきに変え、小品、中品を中心とした個展を予定されており、さらなるご活躍が楽しみです。(事務局)



バラエティーに富む作品群



光る金石文

書展トピックス

第5回方琥書院書画展

●会期 9月12日(木)～17日(火) ●会場 茨木市民ギャラリー 久田方琥

例年通りですが、会場が駅直結という立地条件も有り、連日本当に沢山の方々にお越しいただきました。“皆が自由に今表現したいもの”をテーマに漢字、現代書、水墨画、そして学生作品とバラエティーにとんだ作品展で「楽しい書展ですね」と喜んでいただいております。また、季節を感じる花々がより華やかに会場をお迎えいたしました。



第35回瑤樹会書展

●会期 9月19日(木)～9月22日(日)
●会場 フォーシーズンズ志木ふれあいプラザ

岡村公裕



創設者の岡村翠瑠が逝去してちょうど十年目にあたる第35回瑤樹会書展が開催され、多くの方にご来観いただきました。お陰様で、産経国際書会の先生方や産経新聞社の方々の御指導により、何とか十年続ける事ができました。今後も翠瑠に安心して見守ってもらえるよう、会員一同頑張ります。ありがとうございました。

第10回 書・墨・アート 渡邊麗展

渡邊麗

●会期 11月6日(水)～12月25日(水) ●会場 座・高円寺(杉並区立杉並芸術会館)

第10回となる座高円寺企画の本展。テーマ「書くということ」ことばを掘り下げ紡ぎ一体となり、その根源である心を描き画く。筆触にリズムが生まれ言葉が舞い降りる。書は人・自然であり、書の姿・カタチは人間の存在そのもの。今回の最新作はイソップ寓話の「北風と太陽」のアレンジ大作。他東京フランス学園生徒達とのコラボ作など計7点。一部掛け替え有。



第65回記念あしで會選抜書作展

●会期 11月8日(金)～10日(日)
●会場 尼崎市総合文化センター

今口鷺外



第65回を迎えた社中展。会場の5階フロアーに例年のように会員諸氏の力作200点を。4階フロアーにアーカイブス、来し方の思い出の写真や資料を中心に。また小生の過去作品よりセレクトして展示させて頂くことで、今日までの道のりを振り返り、この先の社中の和と結束を確かめ合う絶好の機会となった。

今年で12回目と成る産経五人会臨書競作は「書譜」でした。

井上空咲初個展「書で奏でる」

●会期 11月12日(火)～17日(日)
●会場 Gallery La Campanella(大阪)

井上空咲

音楽サロンを併設する会場に因み、書と音楽をテーマに初個展を開催致しました。文字性・非文字性の墨象作品を120×120cmの2連作からハガキサイズまで約30点を展示。ご来場の方々から心地よい空間でしたとのお言葉を頂き、盛況のうちに閉場させて頂く事が出来ました。ご支援頂きました皆様に深く感謝申し上げます。



アラカルト

江東区で障害者へ書道指導



完成した作品を手にする参加者

東京2020大会公認プログラムとして東京都江東区が主催する「kotoハートフルアート展」に向けた作品制作のため、東京・上野の森美術館の依頼で10月29日に、知的・精神的障害のある方への書道指導を行いました。指導は煌心書道会の高橋翠石評議員(=写真中央)が担当。同区木場の福祉作業所「らふぁえる」で軽作業などの訓練を行っている7人の方が挑戦しました。指導時間は約1時間半。事前に選んできた思いの文字を墨と筆を使って懸命に書き上げました。みなさん集中力が高く、少しの指摘でたちまちコツをつかんで上達する人も。出品作は、2月8日～18日まで深川江戸資料館に展示され、優秀作はその後5月16日～24日に東京都現代美術館で展示されます。(事務局)

「日本の書200人選」に、最高顧問ら21人出品

7月の東京オリンピック・パラリンピックの開催を記念して、オールジャパンで開催する「日本の自然と書の心『日本の書200人選～東京2020大会の開催を記念して～』」(2020年4月25～5月10日、国立新美術館)の記者会見が12月9日に行われ、出品書家202人が発表されました。文化庁の「日本博」と、五輪組織委員会の「東京2020 N I P P O N フェスティバル」の公式プログラムに正式に採択され、東京2020記念書展実行委員会(構成団体＝産経国際書会、読売書法会、毎日書道会、全国書美術振興会、全日本書道連盟、日本書道ユネスコ登録推進協議会)などが主催、世界に向けての書道のアピールの場となります。

産経国際書会からは、齋藤香坡、佐々木月花、田中鳳柳、村越龍川最高顧問、伊藤欣石副会長(遺墨)、生田博子、石川天瓦、竹澤玉鈴、手島泰六、平方峰壽、本多道子、山上海堂名誉顧問、今口鷺外、岩田正直、島村谿堂、原田圭泉常任顧問、加藤深流顧問、風岡五城理事長、坂本香心理事長代行、高橋照弘副理事長、多田游硯常務理事の21人が出品されます。ぜひ会場に足をお運びください。

(事務局)

岡本杏華先生に厚生労働大臣表彰

岡本杏華常務理事が11月22日(金)、東京都港区のメルパルクホールで開催された全国社会福祉大会において、令和元年度の社会福祉功労者に対する厚生労働大臣表彰を受けられました。書道指導ボランティアとして長年にわたり保育所や幼稚園、高齢者福祉施設を訪問し、児童の健全育成と地域福祉の向上に貢献されたことが評価されたものです。

岡本先生は平成29年にも書道ボランティアの功績で富山県知事表彰を受けられています。「書道での貢献なので特に嬉しく思います」と岡本先生。おめでとうございます。

(事務局)

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和2年1月～3月〉

展覧会名	会期	会場	社中名	代表
第19回泉の会新春作品展	1月14日(火)～1月19日(日)	四街道市市民ギャラリー	泉の会	梶谷綾泉
2020年誠心社現代書小作品展	1月18日(土)～1月23日(木)	上野の森美術館ギャラリー	誠心社	渡邊麗
第18回書道五月女紫映社中展	1月26日(日)～2月1日(土)	東京交通会館ギャラリー2階	書道 五月女紫映	五月女紫映
第83回龍峽書道展	2月5日(水)～2月11日(火・祝)	東京都美術館	龍峽書道会	林龍成
第35回記念景雲社「絆」書道展	2月10日(月)～2月16日(日)	クリエート浜松 ギャラリー31	景雲社	勝田晃拓
第38回全国公募・学生部併催煌心展	2月13日(木)～2月19日(水)	東京都美術館	煌心書道会	松崎龍翠
第38回埼玉県中央書道展覧会	2月14日(金)～2月19日(水)	上尾市民ギャラリー	埼玉県中央書道人連盟	細渕柳青
第59回同巧会書展	2月18日(火)～2月23日(日)	銀座かねまつホール	同巧会	青陽如雲
第31回書成会書展	2月18日(火)～2月23日(日)	セントラルミュージアム銀座	書成会	建部恭子
第49回安らぎと触れあいの書展 第36回書のコアメンートルばくりん	3月10日(火)～3月15日(日)	鳩居堂画廊3・4階	墨林書道院	遠藤乾翠
第48回八戸臨泉会書展・ 第71回八戸臨泉会学生書道展	3月20日(金)～3月21日(土)	八戸ポータルミュージアムはっち	臨泉会	佐々木月花

伊藤欣石先生を偲んで

慎んでご冥福をお祈り申し上げます

伊藤欣石先生とお会い致したのは平成2年7月でした。日書画展の審査会場で、「産経国際書会とはどんな会？」と尋ねられたので、「クリーン（清潔）、クリアー（明朗）、クリエイティブ（創造）」という3C基本理念のことをお話し、入会をお勧めし、詳しいことは産経新聞社の蓑原様とお話しなさってくださいと申しました。その後平成6年4月に入会、理事になられ、平成22年4月に理事長に。平成27年4月に名誉理事長。平成30年4月に産経国際書会副会長に。作品は、第32回展で高円宮賞受賞「雲」。

2020オリンピック・パラリンピック東京大会開催を記念した「日本の書200人選」を楽しみにしていた矢先のことでしたね。展覧会を楽しみにしています。

天国から、書会の行く末を見守ってください。長い間のご厚情有難うございました。安らかにご永眠ください。合掌。

平方峰壽（名誉顧問）



書会の美女に囲まれて（左から平方峰壽先生、原田圭泉先生、伊藤欣石先生、佐藤青苑先生）



高円宮賞受賞作とともに



高円宮賞受賞記念パーティーで

産経国際書会第4代理事長で、平成27年の「第32回産経国際書展」で高円宮賞を受賞された伊藤欣石副会長が昨年10月1日、すい臓がんのため死去されました。81歳でした。伊藤先生は、7月31日の「第36回産経国際書展」祝賀会でご挨拶されるなど元気な姿をみせられていましたが、8月にすい臓がんと診断され、闘病わずか2カ月の急逝でした。

宮城県仙台市生まれ。日大工学部出身で松戸市の土木部長（のち建設局長）の要職に就く傍ら、欣石書道会（現東西書芸会）を立ち上げ、後進の指導に当たられました。師は鈴木天城氏。

淡墨の一字書をよく書かれ、高円宮賞は「雲」で受賞。27年には、産経新聞連載「ふりさけみれば一昭和天皇の87年」の題字も揮毫されています。理事長退任後は、名誉理事長、30年からは副会長の立場で、全日本書道連盟理事、東京2020オリンピック・パラリンピック記念書展実行委員会実行副委員長を務められ、日本の書道全体の振興に尽力されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

（事務局）

追 悼

次の先生方が黄泉につかれました。

本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

副会長 伊藤 欣石(令和元年10月) 無鑑査 小田原玄林(令和元年10月)

無鑑査 細谷 紫水(令和元年11月) 会友 服部 香恵(令和元年8月)

編集後記

新しき年の幕開けです。昨年よりも良い年でありますようお願いしております。

「令和」の種々な祝事が行われ、天皇陛下、皇后陛下に国民が挙って祝意と敬意の念をもって見つめた祝賀パレードは、晴れやかに沿道を埋め尽くした人々の熱烈な祝福で一杯でした。

書会最高顧問、齋藤香坡先生の「書画三昧」の個展が開かれ超大作から小品まで、圧倒的な迫力で表現された作品群を拝見して、心の高まる思いをこれからの糧にしてゆきたいと思いました。

15、19号とたてつづけに襲った台風は河川の氾濫による水没家屋、また農業にこれまでにない甚大な被害をもたらしました。やりきれない思いを抱きながら、一日も早い復興を願わずにはいられません。被害にあわれた方々に、心よりお見舞い申し上げます。

書会副会長として重責を担い、会員に温かい眼差しを向け続けて下さった伊藤欣石先生が10月1日にご逝去されました。今までにいただいたご好意に深く感謝申し上げますとともに、心よりおくやみ申し上げます。

2019年は皇室のたいへんなおよろびの年であり

台風被害を受け深い悲しみの年であり

変化の激しい年でした。

2020年が書会にとっても、皆さんにとっても、さまざまな事を乗り越えてゆく希望を持った新しい出発の年であることを、切に祈念しております。

(高頭子翠)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

編集・発行 令和2年1月号

〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2

産経新聞社事業本部内

産経国際書会事務局

TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974

<http://sankei-shokai.jp/>

<https://www.facebook.com/sankeishokai>

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにお願ひ致します。